

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	賀詞交歓会事業	担当課	秘書課
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間 平成 5年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別 任意の事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働 事業協力
予算科目コード	01-020101-22 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市内の各種企業・公共機関・団体の代表者に対して、新年の抱負を伝え、市政運営の理解と協力を求めるとともに、懇親を深めることを目的として、平成5年1月から開始した。	①招待者の把握（各課から対象者リストを収集） ②案内状の発送・出欠状況の把握 ③出席者名簿の作成 ④開催内容の検討，市役所関係課や関係者等との協議 ⑤開催 参加者から負担金（3,000円）を徴収し，その範囲で実施しているが，総事業費は一般財源で繰り入れている状況である。財源の見直しや地場産品の活用などで内容を充実させる努力を行っており，出席率の向上を図るため，事業内容を検討している。 なお，市内の会場では送付状送付者数に制約があることから，出席率の向上につながるような対象者の精査に取り組む。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
各団体，企業の代表者，議員等の各界代表者が一同に会し，新春の賀詞を交換し，市政運営に対する協力を要請する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
各種企業・公共機関・団体の代表者と懇親を深めるとともに，市制運営に対する理解と協力を求めるもの。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
会場のキャパシティや予算の関係上，招待者数に制限はあるが，欠席者も少なくないため，参加者に市政運営に対する協力を要請する場であることを踏まえ，出席率の向上を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度下半期 賀詞交歓会を開催。開催後，次回に向けての改善点などを検証する。 平成30年度上半期 前回の改善点を踏まえ，開催内容・招待者について検討する。 平成30年度下半期 賀詞交歓会を開催。改善策の効果と今回の改善点を検証し，次回に向けての検討を行う。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
招待者の出席状況を確認するとともに，開催の主旨・基準に基づき招待対象者を精査することで，出席率を向上させる。また，賀詞交歓会の開催内容について，招待者の関心・興味を高めるような工夫をすることで，次回も参加を希望するような意識を持たせるようにする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	事業費用はほぼ食糧費であり，会場使用料は無償で協力を得ている。出席者から会費を徴収して最小限の経費で実施していることから，コストを削減する余地がなく，現状維持とする。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
<p>随時改善に取り組んでおり、成果向上の余地は小さいと考えられる。しかしながら、賀詞交歓会は各種企業・公共機関・団体の代表者が一堂に会する場であることから、市をPRする絶好の機会と捉え、地場産品の活用など市の情報を発信することが必要である。また、参加者から負担金（会費）を徴収しているものの、一般財源を充当して実施している。そのため、受益者負担の観点からも、招待者の見直し等により、出席率の向上を図る必要がある。</p>	<p>出席率向上を図るため、招待者を見直すことで、昨年度よりも参加者数・招待者の出席率が向上した。また、参加者が各種企業・公共機関・団体の代表者であることから、市のPRの場として、もりや循環型農食健協議会から提供された守谷生まれの食品を使用した料理を提供した。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
出席率（パーセント）	45.27	73.66	75.18	76.92	80.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>平成28年度は、市長交代後、初の賀詞交歓会ということもあり、参加者数・出席率とも平成27年度と比べて、大きく向上している。また、今年度も、招待者を精査することで、参加者数・出席率がさらに向上した。今後も招待者を精査して、出席率の向上を図る。 （参考：参加者数／出席率） H27年度181人／48.2% H28年度193人／73.7% H29年度206人／75.2%</p>				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>収容人数の都合上、会場はほぼ飽和状態であり、招待者を大幅に増やすことは難しい状況にあるが、可能な限り多くの人と交流できるよう、参加者の出席率向上を図っていく。また、経費については、参加者からの負担金（会費）だけでは不足することから一般財源も充当しているが、受益者負担の観点からも、負担金の増額や費用の削減、事業内容の見直しといった事業費適正化の検討を行っていく。</p>			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	616	677	681	693	693
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	546	546	615	540	540
	一般財源	70	131	66	153	153
正職員人工数（時間数）		0.00	257.00	136.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,054	558	0	0
トータルコスト		616	1,731	1,239	693	693

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	行政評価事業	担当課	企画課	
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間	平成14年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別	任意の事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード	01-020107-02 単独	根拠法令・条例等	守谷市行政評価実施規程	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>厳しい財政状況を踏まえ、効率的・効果的な成果重視型の行政運営への転換を図るため、平成14年度から国や先進自治体での取組を参考にしつつ、行政評価システム導入の検討を行い、平成16年度から本格的に行政評価システムを導入した。</p>	<p>1 事務事業評価 事務事業の成果等を評価し、改革・改善につなげる。</p> <p>2 施策評価 施策の目的達成度の評価等に基づき、施策間の優先度を評価し、次年度の経営方針を策定する。</p> <p>3 外部評価 行政評価の客観性を高めるために、守谷市行政改革推進委員会による外部評価を実施する。市は評価結果に対する取組方針を決定し、その取組についての進管理を行う。</p> <p>4 市民アンケートの実施 市民アンケートを実施して、成果指標の現状値を把握する。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>1 事務事業の改革改善や職員の意識改革を図る。</p> <p>2 行政評価に基づくPDCAサイクルを展開していくことで、総合計画を効果的かつ効率的に推進させる。</p> <p>3 評価結果を公表して、市の説明責任を果たすとともに市民に市の事業を理解してもらう。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>計画的に質の高い行政事務を進める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>行政評価実施規程や評価表の見直しにより、PDCAサイクルを意識できる体制は整えられつつあるが、それを活用していくために、職員の意識改革や記載方法を徹底する必要がある。</p>	<p>[～平成30年2月] 平成29年度事後評価に向けた事務事業マネジメントマニュアルの見直し作業</p> <p>[平成30年2月] マネジメントに係る説明会や研修会の開催</p> <p>[平成31年年度以降] 随時、研修会の開催や情報提供の実施</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>事務事業マネジメントマニュアル（記載マニュアル）の見直しや職員向けの説明会や研修会を開催し、職員にPDCAサイクルの考え方を浸透させていく。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/> 増加</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p>	<p>説明会や研修会を開催するに当たっては担当者の従事時間数が増加するものの、全庁的に日常のマネジメント意識が浸透されれば、各課の入力時期での負担減少につながることが見込まれるので、トータルでの行政評価への従事時間数（人工数コスト）は維持が見込まれる。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
行政評価を通して、PDCAサイクルの考え方を浸透できるように、引き続き効率性の高いシステムにするための改善を重ねていく。また、研修会等を実施し、職員（特に若手職員）の意識の向上を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革推進委員会からの外部評価を受け、議論すべき項目が分かり、PDCAサイクルが展開できるようなマニュアルに構成を見直した。 研修会は実施できなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
成果指標が目標値を達成できた事務事業の割合	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	成果指標の意義等が十分に理解されていないので、目標達成を意識した事業実施まで至っていない。成果指標のみならず行政評価の意義を丁寧に伝えることで、事務事業レベルにおける目標管理を徹底させ、成果の向上を図っていく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	研修会等を開催し、特に管理職の意識向上を図ることで、職員に行政評価の意義等を浸透させる。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,612	3,075	590	607	607
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,612	3,075	590	607	607
正職員人工数（時間数）		0.00	770.00	398.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	3,157	1,632	0	0
トータルコスト		2,612	6,232	2,222	607	607

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	行政改革推進事業	担当課	企画課	
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間	昭和62年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別	任意的事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード	01-020107-08 単独	根拠法令・条例等	守谷市行政改革推進委員会設置条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
簡素で効率的な行政運営と行政サービスの向上を目指し、昭和62年に「守谷町行政改革大綱」を策定。大綱に基づき、行政改革実施計画の進行管理を行うこととなった。それに伴い、諮問機関として行政改革懇談会（現行政改革推進委員会）、内部協議機関として行政改革推進本部が設置された。	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革の基礎となる大綱及び実施計画等を策定する。 実施計画等の進行管理を行い、市の行政改革につなげる。 行政改革推進に関する重要事項の審議や答申、実施計画等の進捗確認あるいは助言を行う「守谷市行政改革推進委員会」の運営を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
総合計画の実現に向けて、市の構造やシステムを市民ニーズの多様化や行政を取り巻く社会情勢の変化等に適切に対応できるようにする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
行政改革推進委員会を実施するようになった外部評価と、従来からの委員会からの業務であった行政改革実施計画実施事業の執行管理との連携が不十分である。	[平成29年11月～平成30年度] 行政改革推進委員会で協議する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
行政改革推進委員会から意見をいただきながら、より効果的な運用を検討していく。	

次年度のコストの方向性（→その理由）

<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	予定している行政改革推進委員会の回数内で対応するため、コストは維持とする。
--	---------------------------------------

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
第七次守谷市行政改革大綱に掲げている「意識の改革」の実現に向けて、職員への意識付けや目標達成に向けたフォローアップの方法を工夫していく。	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革実施計画実施事業の進捗管理を行い、その状況を行政改革推進委員会に報告した。 行政改革実施計画実施事業に掲げた行政評価の見直しを通して、職員の意識を改革できるように取り組んだが、研修会等の具体的なフォローアップまでは至らなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
行政改革実施計画の目標達成割合（目標達成項目／全項目）（%）	4.76	0.00	18.18	36.36	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	実施計画実施事業は計画期間の2年目であること、取組内容を見直すなどして一部計画から遅れている事業もあることから、成果としては横ばいである。 平成30年度の計画期間終了に向けて、企画課からフォローアップを行い、成果を向上させる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	・行政改革推進委員会から受けた外部評価の提言を踏まえ、行政改革に取り組む。 ・行政評価と行政改革実施計画実施事業が効果的に連携できるように、行政改革推進委員会で協議する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	356	312	319	795	298
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	356	312	319	795	298
正職員人工数（時間数）		0.00	476.00	412.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,952	1,689	0	0
トータルコスト		356	2,264	2,008	795	298

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業	担当課	企画課
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間
	施策	適正な行財政運営の推進	種別
	基本事業	計画行政の推進	市民協働
予算科目コード	01-020107-13 単独	根拠法令・条例等	まち・ひと・しごと創生法, 守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
まち・ひと・しごと創生法に基づき、人口ビジョン実現に向けて効果の高い施策を集中的に実施するための戦略を策定することが各自治体に義務付けられた。今後、その戦略を推進していく必要がある。	平成27年2月に策定した「守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するために、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議等で進捗管理や評価を実施する。 本事業では、会議運営に係る経費等を計上し、個別の戦略については、別途、事業を設定し実施していく。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
人口ビジョンで描いた将来展望を実現するために、戦略を展開し、「住まう」まち（住み続けることができるまち）を実現させる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
	まち・ひと・しごと創生推進会議等で総合戦略の進行管理や評価を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
目標値を達成した成果指標・KPIの割合（全34指標値）（%）	0.00	11.80	23.50	50.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	総合戦略の計画期間も3年が経過し、戦略に基づく事業を個別に実施しているため、約1/4の指標で目標値を達成しており、徐々にその効果が出ているものと考えられる。今後も更に目標値の達成に向け事業を推進させる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	今後も未着手の事業化を検討し、総合戦略の目標値の達成に向け事業を推進させる。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	1,741	20	51	8,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,741	20	51	8,000
正職員人工数（時間数）		0.00	172.00	125.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	705	513	0	0
トータルコスト		0	2,446	533	51	8,000

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	守谷市統計調査員協議会運営事務	担当課	企画課	
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間	昭和48年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別	任意の事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-020501-02 単独	根拠法令・条例等	守谷市統計調査員協議会規約	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和48年に、統計調査員の確保を目的として統計調査員協議会が発足した。	各種統計調査は、統計法に基づく国からの受託事務であり、毎年何らかの統計調査が行われている。統計調査は、調査員が調査対象を一軒一軒回り調査を行っており、協議会員は率先して統計調査を行う。また、協議会員は研修を行い、調査の資質向上に努めており、円滑な統計調査を行っている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
統計調査員協議会を組織することにより、統計調査員の確保及び円滑な統計調査を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在の統計協議会会員の平均年齢が68.7歳（会員数41人うち70歳以上22人）と高齢化が進んでおり、統計調査員の確保及び円滑な統計調査が困難になってしまう可能性がある。	統計調査時に、登録調査員へ協議会の加入の案内を行った。また、現協議会員に後任者の推薦または、登録調査員の推薦を行ってもらう。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
統計調査の際、市の登録調査員から統計協議会に加入していない経験年数の少ない統計調査員を積極的に採用し、その人に対し統計協議会への勧誘を行うようにする。 なお、登録調査員については随時受け付けを行っている。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	統計調査は毎年行われているため、安定した調査員の確保が必要である。また、近年はプライバシー意識の高まり等により調査を行うことが困難のため、調査員の確保も大変である。協議会を組織することで、調査員同士の連携を深め調査員の確保に努める。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
各調査の調査員は100%確保することが出来た。統計調査における協議会員の割合は83.3%	各調査の調査員は100%確保することが出来た。そのうち協議会員以外（市の登録調査員）1名を勧誘によりH30年4月から守谷市統計調査員協議会員となる。調査における協議会員の割合は90.6%。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
調査に必要な統計調査員を確保できた調査の割合	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	H29年度協議会会員数は41名と変わらず。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	H30年度協議会会員数は39名となる。会員の高齢化も問題であるため、引き続き登録調査員から会員の勧誘を図る。なお、H29年度は2名の登録があり、H30年度も会員の確保に努める。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	47	46	42	44	44
	国・県支出金	20	16	14	15	14
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	27	30	28	29	30
正職員人工数（時間数）		0.00	239.00	116.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	980	476	0	0
トータルコスト		47	1,026	518	44	44

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	契約管理事務	担当課	財政課
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間 年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別 法定事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働
予算科目コード	01-020104-03 単独	根拠法令・条例等	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
適正な金額による契約の締結、公共工事に対する市民の信頼の確保及び請け負う建設業等の健全な発展を図るため行っている。	入札参加申請による業者登録の受付、工事発注見通しの公表、契約方法の指導、入札参加資格審査会の運営、入札会の執行、契約の締結及び入札結果の公表を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
契約履行能力及び信用のおける不特定多数の者を競わせ、最も有利な価格で契約を行い、市の事業を確実に実施する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
適正な金額による契約の締結、公共工事に対する市民の信頼確保、建設業者等の健全な発展を図るため、業者登録の受付、工事発注見通しの公表、入札資格審査会の運営、入札会の執行、契約の締結及び入札結果の公表を行っている。特に建築工事については、守谷市に限らず不調案件が増えている傾向にある。	今年度中に、市内・市外の不調案件の精査と分析等を進め、工事発注方法等の検討を進める。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
不調案件の精査と分析の結果により、解決策等を見出す。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	電子入札システム経費及び入札参加資格電子申請システム経費等の最低限の経費でありコストの削減は難しい。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
公正公平な入札を行い、最も適正な価格で契約を進め、市の事業を確実に実施する。	契約履行能力及び信用のある不特定多数あるいは特定多数の者を競わせ、最も適正な価格で契約を進め、公正公平な入札執行に取り組んだ。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
入札案件の設計額に対する契約額の比率（%）	91.00	90.27	87.32	90.00	90.27
入札案件の設計額と契約額の差額（千円）	341,924.00	580,439.00	255,696.00	341,924.00	580,439.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	法律に基づき、公正公平な入札執行を進めており、引き続き成果の維持を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	法律に基づき、公平公正な事業を進めており、法令順守により現状維持に努める。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	4,073	4,612	3,908	4,641	4,641
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	4,073	4,612	3,908	4,641	4,641
正職員人工数（時間数）		0.00	1,840.00	1,670.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	7,544	6,847	0	0
トータルコスト		4,073	12,156	10,755	4,641	4,641

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	委託バス運行調整事務	担当課	財政課
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間
	施策	適正な行財政運営の推進	種別
	基本事業	計画行政の推進	市民協働
予算科目コード	01-020104-05 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成21年度に市有バスを廃止し、市主催の事業等に係るバスの利用について、民間業者との委託契約によるバス運行業務を開始した。	公用によるバスの利用について、民間業者と3年契約による委託契約を締結し、各課から申請の受付、委託バス運行業者と連絡調整を行い、市主催の事業や行政運営上必要な事業等に係るバスの運行を進める。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
各課からのバス利用申請と委託バス業者との連絡調整を行い、効率的にバスを利用することで、円滑に市主催の事業や行政運営上必要な事業等を進める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
効率的なバスの利用を行い、円滑に市主催の事業や行政運営上必要な事業に利活用を図っている。バス運行法の改正により、経費が増加傾向にある。	平成30年4月～7月：他市の状況等の調査 8月～9月：運行経費の分析 10月：見直しの判断
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
バス運行経費が増加傾向にあることから経費の縮減のため、利用団体の範囲の見直しや受益者負担の導入などの検討を進める。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	入札により適正な価格で落札、契約を締結しており、現状では、これ以上のコスト削減の余地はない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
バスの運送法の改正に伴い、平成29年度から旅客運送事業の料金制度が変更になり、コストの増加が懸念される。	平成29年度は契約の更新時期であり、入札により適正な業者を選定することで、コストの増加を抑えることができた。 効率的にバスを利用することで、円滑に市主催の事業等を進めることができ、また、各課からの申請受付時には事業の内容や適正な運行時間の審査に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
大型バスの1台当たりの使用単価（円）	52,981.00	52,981.00	72,066.00	72,066.00	72,066.00
小型バスの1台当たりの使用単価（円）	38,590.00	38,590.00	46,080.00	46,080.00	46,080.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	平成29年度から旅客運送事業の料金制度が変更になったことで、バス1日当たりの使用単価は増額している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	市主催事業等で利用するバスを運行するもので、行政運営上、継続することが必要である				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	4,478	4,517	5,219	7,278	7,278
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	4,478	4,517	5,219	7,278	7,278
正職員人工数（時間数）		0.00	133.00	99.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	545	406	0	0
トータルコスト		4,478	5,062	5,625	7,278	7,278

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	統計書「統計もりや」作成事務	担当課	企画課	
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間	昭和59年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別	任意的事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働	その他
予算科目コード	- - 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市の統計情報を活用してもらうため、昭和59年度から「統計もりや」の編集を開始した。	守谷市の概要や昭和30年度からの市の歩みを掲載している。人口・経済・産業・教育文化・保健福祉の内容の数値を年度ごとに調査し、1冊の冊子にまとめたものを、平成18年から市のホームページに掲載し、毎年更新を行っている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
守谷市の人口の推移や市民生活の内容等を年度ごとにまとめることにより、各種計画の策定の基礎資料に用いてもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
計画的に質の高い行政事務を進める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
幅広く利用してもらいたいが、現状、どれだけ用いられているか把握しきれていない。まずは、どの程度利用されているかを把握する必要がある。	統計もりや作成後、考えた手法を用いて、利用状況を確認し、次年度の統計もりや作成の内容を精査する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
庁内での利用状況（どの内容をどういう計画で使用しているか）を把握しそれを踏まえての、統計もりやの内容を考えるシステムを構築する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	統計もりやの内容を精査する作業が必要なため。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
統計データの見やすさを顧慮し、内容にゆとりを持たせページ数を増やした。統計もりやには同項目の推移を載せているため内容の改善は行っていない。庁内の利用状況については把握で出来ていない。	「統計もりや」の内容においては変更は行っていない。なお、本年度販売数4冊（H28年度は0冊）。窓口・電話での問い合わせを「統計もりや」を基に対応していたため購入につながっている。庁内での利用については2課（総合窓口課・介護福祉課）で人口データの活用している。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
ホームページアクセス数（件）	68,100.00	88,847.00	9,950.00	100,000.00	100,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	HPによる「統計もりや」へのアクセス数が年々増えている。また、掲示板で守谷市の高齢人口・生産人口・出生率等を周知したことにより、職員にも統計データについて関心を持ってもらう事につながった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	今後も「統計もりや」にとどまらず、統計情報を公表することにより活用を促し、統計データの利便性を高める。			

コストの推移					
項目	H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	0	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）	0.00	74.00	107.00	0.00	0.00
正職員人件費	0	303	439	0	0
トータルコスト	0	303	439	0	0

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	契約に基づく検査事務	担当課	財政課
総合計画	政策	信頼に応える行政運営	計画期間 年度～
	施策	適正な行財政運営の推進	種別 法定事務
	基本事業	計画行政の推進	市民協働
予算科目コード	- - 単独	根拠法令・条例等	守谷市建設工事施工・設計業務等の手続き及び監督規程

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>契約の適正な履行を確保するため行っている。</p>	<p>契約金額が30万円以上の成果品又は納品物について、契約の相手方の給付が完了した際に、契約書、設計図書等に基づき当該給付の内容及び数量等の検査を行う。検査の結果、給付の完了が確認された場合は、工事請負等にあつては竣工検査調書又は出来高検査調書、物品等の購入にあつては物品等検査調書を作成する。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>契約金額が30万円以上の成果品又は納品物における契約の適正な履行を確保する。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>計画的に質の高い行政事務を進める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>契約の適正な履行の確保をするため検査を実施している。 検査が年末や年度末に集中するため、特に土木の検査には時間を要している。</p>	<p>年間を通して、契約書、設計図書等に基づき当該給付の内容及び数量等の検査を行い、検査の結果、給付の完了が確認された場合は、工事請負等にあつては竣工検査調書又は出来高検査調書、物品等の購入にあつては物品等検査調書を作成する。</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>土木の検査の人員が少ないため、建築士にも土木等の検査の補助をお願いしている。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/>増加 <input checked="" type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>削減</p>	<p>契約の適正な履行の確認として、市が検査・検収を行っており、検査内容の省略や簡略化など、これ以上のコストの削減は難しい。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
408件の検査があり契約の適正な履行を確保するために必要な件数である。	390件の検査があり契約の適正な履行を確保するために必要な件数である。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
検査対象件数（件）	391.00	408.00	413.00	410.00	410.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	当該年度において400件規模の検査がある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	当該年度において400件規模の検査があり、契約の適正な履行を確保するために必要な件数である。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	0	0	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	890.00	606.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	3,649	2,485	0	0
トータルコスト		0	3,649	2,485	0	0